

GUNMA
HOUSING
AWARD
2019

優秀賞

リフォーム

母を迎える家・・・
猫と一緒に

くははをむかえるいえ・・・ねこといっしょに

設計者 徳井正樹建築研究室

施工者 株式会社 数寄屋建設



CONCEPT

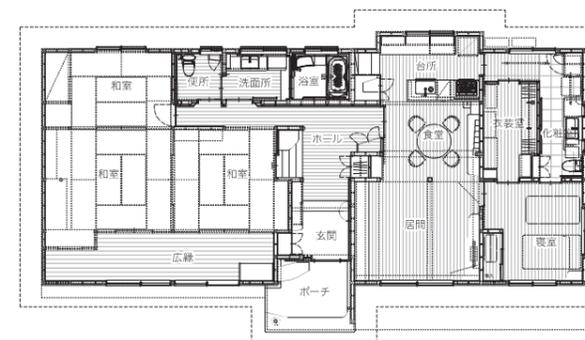
設計主旨

「築40年の古屋を『母を迎える家』に改修したい」。そこに託された建主の思いは、高齢化社会となった現代にあって、誰もが憧れる理想的なリフォーム計画と映りました。ただ、平屋47坪の6割を「お母様やご親戚らの寛ぎの場」、残り4割を「60代からの安心生活空間」への改修計画は、正に「ハレとケを一つにまとめる」難しい課題でした。

外観はお母様の記憶を第一に考え、劣化の少ないリシン掻き落としの外壁を残し、基礎補強、軸組補強、断熱強化などは全て室内側から行いました。温存した和室空間と対照的な個人生活空間は、大きな間取り変更を求められるも極力既存軸組を優先して補強、撤去柱は2本に留めて壁量を増大。寝室隣にはホテルのような水廻りを設え、続く北側キッチンもガラス瓦で明るさ確保し、のびのびしたリビングに回遊型動線に繋がりました。

計画の設計者の役割は、1つの工程ごとに「母を迎える」の意味を工事に説明し、この家に染み込んだ記憶を大切にもらうこと。それが実現できました。

平面図



REVIEW

講評

40年来、住宅街の街並みの一角を担ってきた佇まいが継承された。これまで住まれた家族の想いと同等に。リフォームといっても大規模な改修によって現在の家族関係性に配慮し対処された住宅である。回遊動線が特徴的な平面計画には機能性の高さが評価された。素材の扱いと収まりは技量の高さを感じさせ、またユニークな作りこみにも高い評価を得ている。軸を最大限活かしながらの耐久性向上化を同時に行っている点も特筆すべきポイントである。最優秀と同レベルの「ぐんまの家」であろうと評価されたリフォームのお手本のような住宅である。